

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3164445号
(U3164445)

(45) 発行日 平成22年12月2日(2010.12.2)

(24) 登録日 平成22年11月10日(2010.11.10)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 F 7/08 (2006.01)

A 6 1 F 7/08 3 3 2 D

A 6 1 L 9/03 (2006.01)

A 6 1 L 9/03

評価書の請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2010-5183 (U2010-5183)

(22) 出願日 平成22年8月3日(2010.8.3)

(73) 実用新案権者 510211675

金井 まり

愛知県名古屋市千種区朝岡町1丁目11番
地の1

(74) 代理人 100068663

弁理士 松波 祥文

(72) 考案者 金井 まり

愛知県名古屋市千種区朝岡町1丁目11番
地の1

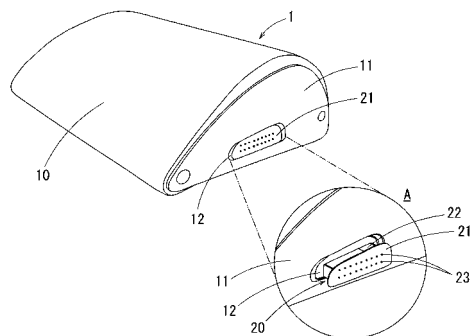
(54) 【考案の名称】 芳香消臭機能付電気あんか

(57) 【要約】

【課題】使用する人の嗜好に応じて芳香消臭剤を幅広く選択することが可能であり、好ましい芳香や消臭効果を得て、安眠することのできる電気あんかを提供する。

【解決手段】本考案のあんかは着脱可能な芳香消臭剤保持具を装着したハードあんかであり、特にハードあんかの側面に芳香消臭剤保持具を装着したことを特徴とする。芳香消臭剤保持具が装着されている態様としては、側面に挿入口が設けられ、芳香消臭剤保持具は挿入および引出し可能となっており、この保持具は、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と挿入口を閉じる蓋とを備えており、挿入口を閉じる蓋には通気孔が設けられていることが好ましい。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

着脱可能な芳香消臭剤保持具を装着したハードあんか。

【請求項 2】

着脱可能な芳香消臭剤保持具を側面に装着したハードあんか。

【請求項 3】

側面に挿入口が設けられ、芳香消臭剤保持具は挿入および引出し可能となっていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のハードあんか。

【請求項 4】

芳香消臭剤保持具は、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と挿入口を閉じる蓋とを備えていることを特徴とする請求項 3 に記載のハードあんか。

【請求項 5】

挿入口を閉じる蓋には通気孔が設けられていることを特徴とする請求項 4 に記載のハードあんか。

【請求項 6】

芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は、トレーであることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載のハードあんか。

【請求項 7】

芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は、多孔質プレートであることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載のハードあんか。

【請求項 8】

多孔質プレートが多孔質セラミックであることを特徴とする請求項 7 に記載のハードあんか。

【請求項 9】

芳香消臭剤保持具が芳香消臭剤を含浸した多孔質体で構成したことを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載のハードあんか。

【請求項 10】

芳香消臭剤を含浸させた多孔質体を、芳香消臭成分が揮散することなく密封可能な収納袋もしくは収納容器に収納したことを特徴とする請求項 6 または 9 に記載のハードあんかに用いる芳香消臭剤パック。

【請求項 11】

芳香消臭剤を充填した充填部と多孔質体からなる揮散部とからなることを特徴とする請求項 6 または 9 に記載のハードあんかに用いる芳香消臭剤パック。

【請求項 12】

多孔質体が繊維集合体であることを特徴とする請求項 10 または 11 に記載の芳香消臭剤パック。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、寝具に入れ、主に足もとを温める電気あんかに関し、特に芳香消臭機能を兼ね備えた電気あんかに関する。

【背景技術】**【0002】**

電気あんかは、布団などの寝具に入れ主に足もとを温めるために使用されている。この場合、電気あんかは密閉状態に近い寝具の中で使用されるため、足が汗ばむなどして、布団の中に臭気がこもることがある。このように、布団の中に臭気がこもると、折角足元を温め安眠しようとしているのに、却って安眠が妨げられることになってしまう。そのために、芳香消臭機能をも兼ね備えた電気あんかが望まれている。

【0003】

従来から、ろうそくなどなどにより、芳香成分を加熱揮散する芳香剤揮散器の代わりに

10

20

30

40

50

、照明器具やヒーター・加湿器などの家電製品に付随させて、発生する熱を利用して芳香成分を揮散させたり、加湿蒸気と共に揮散させたりするものも使われてきた。このものは、芳香剤揮散器として専用の加熱源を必要とせず、安全性が高く、経済的である。

【0004】

一方、特許文献1には、電気カーペットや電気座布団などの面状採暖具において、芳香剤などを収納したマイクロカプセルを含む軟質発泡体で発熱体を覆い、芳香成分などを徐々に揮散する面状採暖具が記載されている。また、特許文献2には、電気毛布において、発熱体近くに芳香体を配設し、香りを発生する毛布が記載されている。そして、特許文献3には、足裏等を適度に刺激するローラーを備えた足温器において、このローラーに芳香剤を内蔵し、ローラーの使用時に芳香成分を放出する足温器が記載されている。

10

【0005】

しかしながら、これらの電気カーペット、電気毛布、および足温器では、芳香体ないしは芳香剤は、発熱体の近傍に固定して配設されており、芳香体や芳香剤中の芳香成分が揮散してしまえば、芳香の放出は終了する。そして、成分が揮散し終えた芳香体や芳香剤の取替えは簡単ではなかった。さらに芳香剤成分の種類を変更するのも容易ではなかった。

【0006】

布団などの寝具に入れて用いる電気あんかに芳香消臭機能を備えさせ、芳香消臭剤により、臭気をマスクして消臭するにしても、芳香の感じ易さは個々の人により異なるため、消臭の効果は個々の人により異なり、また心地よい芳香と感ずる芳香剤についても同様に異なるのが通常である。そのため、臭気がマスクされたり、心地よい芳香を感じたりするためには、何種類かの芳香消臭剤を取り揃え、使用する個々の人の嗜好に応じて、実際に芳香消臭剤の効果を確認し、選択してもらうことも必要となる。そのため、上記の電気カーペットや足温器などのように、芳香剤成分の種類の変更が容易でないものは、あんかのように寝具などと共用するものには好ましくなかった。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献1】特開2002-162048号公報

【特許文献2】特開平4-233185号公報

【特許文献3】実開昭63-163830号公報

30

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0008】

本考案の課題は、使用する人の嗜好に応じて芳香消臭剤を幅広く選択することが可能であり、好ましい芳香や消臭効果を得て、安眠することのできる電気あんかを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本考案の電気あんかは、着脱可能な芳香消臭剤保持具を装着したものであり、特にハードあんかの側面にこの芳香消臭剤保持具を装着したことを特徴とする。そして、ハードあんかとしては山形タイプ、平形タイプいずれも使用できる。

40

【0010】

芳香消臭剤保持具が装着されている態様としては、側面に挿入口が設けられ、芳香消臭剤保持具は挿入および引出し可能となっているものが好ましい。さらに、この保持具が、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と挿入口を閉じる蓋とを備えており、挿入口を閉じる蓋には通気孔が設けられていることが好ましい。

【0011】

さらに、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は、トレーまたは多孔質プレートであり、多孔質プレートとしては多孔質セラミックが好ましい。そして、芳香消臭剤はこのトレーに注入するか、多孔質プレートに含浸させることで受け入れ保持する。さらには芳香消臭

50

剤を含浸させた多孔質体をこのトレーに収納することもできる。また、芳香消臭剤を注入したトレーまたは含浸させた多孔質体を、直接、挿入口に挿入した後、必要により蓋をすることでもよいが、この多孔質体に蓋を備えたものが好ましい。

【0012】

また、芳香消臭剤保持具として芳香消臭剤を含浸させた多孔質体を、芳香消臭成分が揮散することなく密封可能な収納袋もしくは収納容器に収納した芳香消臭剤パックとし、使用に際してこの多孔質体を取り出し、前記トレーに収納することができる。さらに、このパックは、芳香消臭剤を充填した充填部と多孔質体からなる揮散部とから構成し、使用に際して芳香消臭剤を多孔質体を含浸させることでもよく、この多孔質体としては、繊維集合体を用いることが好ましい。

10

【0013】

芳香消臭剤としては精油などの天然香料や合成香料など芳香成分を揮散したり、臭気をマスクする消臭成分を発散したりするものや、除菌殺菌成分を揮散するものを使用できる。さらには、活性炭やシリカゲルのように、空気中の臭気成分や水分を吸着吸収するものも使用できる。

【0014】

上記「ハードあんか」とは、JIS C9335「電気コタツ類」で定義されるものであり、主として寝具の中に入れて使用し、足もとを暖めるもので、発熱体や本体全体が硬質のものをいう。

【考案の効果】

20

【0015】

本考案の電気あんかでは、芳香消臭剤保持具が着脱可能となっているため、嗜好に合わせて芳香消臭剤を選択でき、また、照明器具やヒーター・加湿器などの家電製品とは異なり、あんかによる布団などの寝具内の加温のため、室温に左右されず、長時間にわたり芳香消臭成分を徐々に発散し、臭気を緩和すると共に、快適な芳香を漂わせ、安眠を得ることができる。また、通常の芳香剤揮散器では、専用の熱源または超音波発振などを用いるが、本考案では布団内を加温する熱を利用するもので、エネルギーを効率的に利用することができる。特に、芳香消臭剤保持具が、あんか本体内部に挿入されて装着されている場合には、より効率的に熱が利用できる。

【0016】

30

また、芳香消臭剤保持具は、側面に取り付けた挿入口に挿入したり、引き出したりすることで容易に着脱できるため、芳香消臭剤の取替え変更が簡単である。さらにはこの保持具が、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と蓋とを備えている場合には、この蓋が把手の役割も兼ねて便利であり、受け入れ保持する部材がトレーや多孔質プレートの場合には芳香消臭剤の収納が簡単であり、さらには芳香消臭剤を充填した別売のパックの利用も可能となる。

【0017】

一方、臭気成分や水分を吸着するタイプでは、寝具内のように限られた空間内で作用すればよいので、効率よく臭気成分や水分を吸着し、寝具内より除去することができる。

【図面の簡単な説明】

40

【0018】

【図1】本考案の電気あんかの山形タイプの実施例の外観説明図である。

【図2】本考案の電気あんかの平形タイプの実施例の外観説明図である。

【図3】挿入および引き出し可能な芳香消臭剤保持具の実施例の外観説明図である。

【図4】挿入および引き出し可能な芳香消臭剤保持具の別の実施例の外観説明図である。

【図5】芳香消臭剤を含浸させた多孔質体を収納袋に収納し、芳香消臭剤パックとした実施例の説明図である。

【図6】芳香消臭剤の充填部と揮散部とからなる芳香消臭剤パックの実施例の説明図である。

【考案を実施するための形態】

50

【 0 0 1 9 】

以下、実施例を示す図面を基に本考案の詳細を説明する。図 1 は本考案のハードあんかを示しており、本体 1 0 が山形となっている山形タイプハードあんか 1 に芳香消臭剤保持具 2 0 を装着した例を示している。ハードあんか 1 の側面 1 1 に設けた挿入口 1 2 に、芳香消臭剤保持具 2 0 を装着した説明図である。ここでは、芳香消臭剤保持具 2 0 は、挿入口 1 2 に対して挿入、引出しが可能であり、図 1 中の A では一部引出された状態が示されている。芳香消臭剤保持具 2 0 は、図 3 に示すように、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材であるトレイ 2 2 と、挿入口 1 2 を閉じる蓋 2 1 とからなっている。蓋 2 1 には通気孔 2 3 が設けられている。

【 0 0 2 0 】

10

上記トレイ 2 2 に、使用者の嗜好に合った芳香消臭剤を注入し、本体 1 0 の中に芳香消臭剤保持具 2 0 を挿入し、次いであんかの加温を始めることにより、注入した芳香消臭剤から芳香消臭成分が揮散し、通気孔 2 3 を経由して、寝具内に芳香消臭成分が拡散する。尚、ハードあんかには通気口が設けられている場合もあり、その通気口から芳香消臭成分が拡散することもできるため、この通気孔 2 3 は必ずしも必要ではなく、場合によってはこの蓋に通気孔を設けるのではなく、挿入口の周辺などあんか本体に適宜設けることもできる。

【 0 0 2 1 】

図 2 は、本体 1 3 が平形となっている平形タイプハードあんか 2 に芳香消臭剤保持具 2 0 を装着した例を示している。この場合、保持具 2 0 はハードあんか 2 の側面 1 4 の挿入口 1 2 を介して装着されているが、本体 1 3 の内部に設置されている発熱部と直接触れない挿入口の位置や保持具のサイズに設計される。山形タイプの場合には、あんか本体 1 0 の内部の空間に余裕があり、保持具 2 0 の装着場所の制約が少ない。

20

【 0 0 2 2 】

図 4 は、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材である多孔質プレート 2 4 と蓋 2 1 とからなっている芳香消臭剤保持具の例を示したものである。多孔質プレート 2 4 は、多数の細孔を表面および内部に有する多孔質物質を素材として構成される。多孔質物質としては、例えば素焼き陶器あるいは多孔質アルミナまたは多孔質シリカなどの焼結体からなる多孔質セラミック、織物、不織布、フェルトなどの多孔質繊維集合体、天然またはウレタンスポンジ、メラミンスポンジなどの合成スポンジ、発泡ポリスチレン、発泡ポリエチレンなどの発泡プラスチック、および木材などを例示することができる。多孔質プレート 2 4 は、その構成素材の表面や内部の細孔に芳香消臭剤を含有し、保持することができ、加温により芳香消臭成分を揮散することができる。そのため、使用に当たって、使用者の嗜好に合った芳香消臭剤を多孔質プレート 2 4 に塗布含浸させ、ついで加温することで芳香消臭成分を揮散させることができる。

30

【 0 0 2 3 】

芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は上記したトレイや多孔質プレートだけでなく、これらの組合せであってもよく、トレイに多孔質プレートを収納する構成でもよい。さらに、トレイとの組合せでは多孔質物質の形状は種々のものを用いることができ、プレート状以外にも、たとえばシート状、紐状、棒状、または粒状などの多孔質物質をトレイの中に配置し、この多孔質物質に芳香消臭剤を含浸させることができる。また、あらかじめ芳香消臭剤を含浸させた多孔質物質をトレイに配置することでもよい。

40

【 0 0 2 4 】

この場合、図 5 に示すような芳香消臭剤パック 3 0 としておくことが便利である。芳香消臭剤パック 3 0 は、芳香消臭剤を含浸させた多孔質体 3 1 を収納袋 3 2 に収納したものであり、使用に当たっては取出し口 3 3 を開封し多孔質体 3 1 を前記トレイ 2 2 に収納し、あんかの電源を入れ、加温することで多孔質体 3 1 から芳香消臭成分を揮散させることができる。多孔質体に各種の芳香消臭剤を含浸させたパックを取り揃えることで、使用者の嗜好や、使用するときの状況に合致した芳香消臭剤の選択が可能となる。図 5 では、多孔質体 3 1 としてプレートの形状を示したが、上記のように多孔質体の材質、形状は各

50

種のものを用いることができる。収納袋 32 は、芳香消臭成分が揮散しないように密封可能な素材である、プラスチックラミネートフィルムまたはアルミラミネートフィルムなどで構成される。芳香消臭剤パックは、このように収納袋とする他にも、芳香消臭剤を含浸させた多孔質体 31 を、密閉容器に収納する態様であってもよい。密閉容器としてはプラスチック、ガラス、金属製の容器を用いることができる。

【0025】

以上の説明では、芳香消臭剤パックより取り出した芳香消臭剤を含浸させた多孔質体をトレイに収納したが、多孔質体がセラミックや硬質繊維集合体など、形状を自己保持できるものであれば、多孔質プレート 24 に代えて、ねじ込みや嵌め込みにより蓋 21 に直接取り付けてもよいし、多孔質体のみを挿入口から挿入し、次いで必要に応じて蓋をすることでもよい。また、あらかじめ蓋が付けられた多孔質体であってもよい。これらの場合多孔質体の形状はプレート状の他、棒状、柱状、筒状など各種の形状にして用いることができる。

10

【0026】

図 6 は別の態様の芳香消臭剤パック 40 であり、芳香消臭剤を含浸保持し、加温により芳香消臭成分を揮散する多孔質体 41 と芳香消臭剤を充填した芳香消臭剤充填袋 42 とを収納トレイ 44 に収納したものである。芳香消臭剤充填袋 42 の注出口はキャップ 43 で密閉されている。この芳香消臭剤パック 40 は、使用に際して、キャップ 43 を取り外し、注出口より芳香消臭剤を多孔質体 41 に注ぎ、含浸させ、次いで、収納トレイ 44 のまま、あんかの挿入口 22 に挿入して使用することができる。このとき、収納トレイ 44 の前面 45 に挿入口を閉じる蓋を取り付けるか、または前面 45 を蓋状に加工しておいてもよい。さらには、芳香消臭剤を含浸させた多孔質体 41 を収納トレイ 44 から取り出し、前記した芳香消臭剤保持具 20 のトレイ 22 に収納してもよい。

20

【0027】

芳香消臭剤パック 40 では、芳香消臭剤充填袋 42 を用いたが、隔壁により収納トレイを 2 分割し、一方の側には多孔質体を収納し、他の側には芳香消臭剤を収納し、この側の上面は密閉シールをする。そして、使用に際して隔壁を取り除くか、密閉シールを取り除き芳香消臭剤が多孔質体に含浸させて、あんかに装着する態様であってもよい。充填袋 42 は各種のボトルであってもよく、プラスチック、ガラス、陶磁器、金属製のボトルを使用することができる。

30

【0028】

以上の実施例においては、芳香消臭剤保持具はあんかの側面に装着したものを示したが、装着する場所は、側面に限らず装着することができる。この場合、発熱部と直製接触することを避けたり、布団などを被せても芳香消臭成分の発散が妨げられたりしないように装着すればよい。

【0029】

本考案に使用する芳香消臭剤とは、芳香成分を揮散したり、臭気をマスクする消臭成分を揮散したりするものや、除菌殺菌成分を揮散するものである。さらに、活性炭やシリカゲルのように、空気中の臭気成分や水分を吸着吸収するものも包含する。このような芳香消臭剤としては、各種公知の香料、例えば植物体や一部の動物体から抽出された天然香料、天然香料から分離された芳香性化合物および合成された芳香性化合物よりなる合成香料、ならびにこれらの香料および香料成分を混合したり、水、アルコール類、エーテル類、エステル類およびその他の溶媒で希釈したりした調合香料などを示すことができる。さらには、香料成分を揮散する植物体、例えば香木、ハーブ、かんきつ類などの果実や、植物の葉や花などと混合したボプリなどであってもよい。これらの香料類は前述したトレイに収納したり、多孔質体に塗布、含浸させたりすることで使用される。

40

【0030】

また、このような香料類により、臭気をマスクして、感じにくくする他にも、臭気成分であるアミン類、脂肪酸類、イオウ化合物などを中和、分解する消臭成分を揮散し、化学的に消臭する脱臭剤も用いることができる。アルコールなどの公知の除菌消臭剤も用いる

50

ができる。その他、前記した活性炭やシリカゲルなども用いることができ、発生する臭気を吸着したり、体から発生した湿気を吸収させたりすることもできる。これらは香料類と併用することも有用である。

【 0 0 3 1 】

芳香消臭剤保持具の装着は、あんか本体に挿入することが熱の有効利用の点で好ましいが、着脱可能となっておればこのような態様以外であってもよく、この保持具をあんか本体の外面に装着することもできる。例えば、蝶ネジ、化粧ネジ、ノブ付ネジなどの手締め可能なネジ類を用いたり、ホックなどの点ファスナーまたは面ファスナーなどを用いたりして着脱可能に装着することも妨げない。

【 符号の説明 】

10

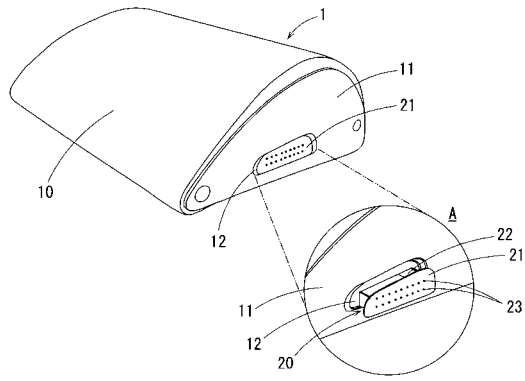
【 0 0 3 2 】

- 1 山形タイプハードあんか
- 2 平形タイプハードあんか
- 1 0 本体
- 1 1 側面
- 1 2 挿入口
- 2 0 芳香消臭剤保持具
- 2 1 蓋
- 2 2 トレー
- 2 3 通気孔
- 2 4 多孔質プレート
- 3 0 芳香消臭剤パック
- 3 1 多孔質体（芳香消臭剤含浸）
- 3 2 収納袋
- 3 3 取り出し口
- 4 0 芳香消臭剤パック
- 4 1 多孔質体
- 4 2 芳香消臭剤充填袋
- 4 3 キャップ
- 4 4 収納トレー

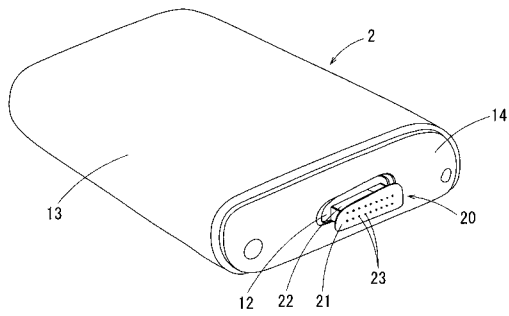
20

30

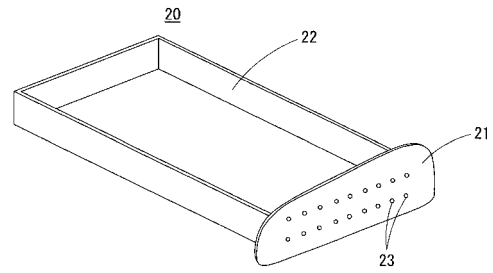
【図 1】



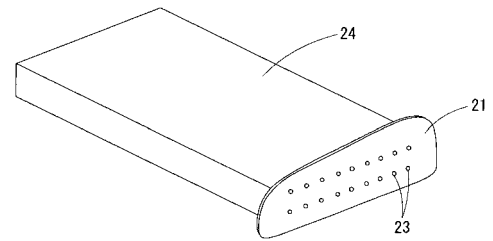
【図 2】



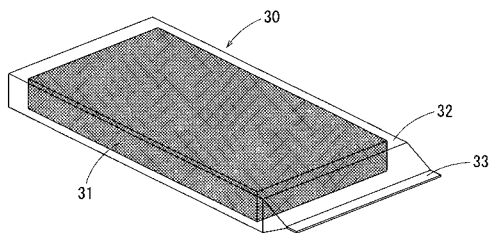
【図 3】



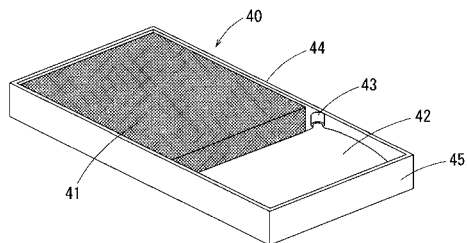
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【手続補正書】

【提出日】平成22年9月22日(2010.9.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

側面に挿入口が設けられ、該挿入口に挿入および引き出し可能な芳香消臭剤保持具が装着されていることを特徴とするハードあなか。

【請求項 2】

あなか本体の外面に、着脱可能な芳香剤保持具が直接装着されていることを特徴とするハードあなか。

【請求項 3】

芳香消臭剤保持具は、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と挿入口を閉じる蓋とを備えていることを特徴とする請求項1に記載のハードあなか。

【請求項 4】

挿入口を閉じる蓋には通気孔が設けられていることを特徴とする請求項3に記載のハードあなか。

【請求項 5】

芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は、トレーであることを特徴とする請求項3または4に記載のハードあなか。

【請求項 6】

芳香消臭剤を受け入れ保持する部材は、多孔質プレートであることを特徴とする請求項3または4に記載のハードあなか。

【請求項 7】

多孔質プレートが多孔質セラミックであることを特徴とする請求項6に記載のハードあなか。

【請求項 8】

芳香消臭剤保持具が芳香消臭剤を含浸した多孔質体で構成したことを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載のハードあなか。

【請求項 9】

芳香消臭剤を含浸させた多孔質体を、芳香消臭成分が揮散することなく密封可能な収納袋もしくは収納容器に収納したことを特徴とする請求項5または8に記載のハードあなかに用いる芳香消臭剤パック。

【請求項 10】

芳香消臭剤を充填した充填部と多孔質体からなる揮散部とからなることを特徴とする請求項5または8に記載のハードあなかに用いる芳香消臭剤パック。

【請求項 11】

多孔質体が繊維集合体であることを特徴とする請求項9または10に記載の芳香消臭剤パック。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本考案の電気あなかは、側面に挿入口が設けられ、該挿入口に挿入および引き出し可能な芳香消臭剤保持具が装着されていることを特徴とするハードあなかであり、さらにあな

か本体の外面に、着脱可能な芳香剤保持具が直接装着されていることを特徴とするハードあんかである。そして、ハードあんかとしては山形タイプ、平形タイプいずれも使用できる。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

芳香消臭剤保持具が装着されている態様としては、側面に挿入口が設けられ、芳香消臭剤保持具は挿入および引出し可能となっており、さらに、この保持具が、芳香消臭剤を受け入れ保持する部材と挿入口を閉じる蓋とを備えており、挿入口を閉じる蓋には通気孔が設けられていることが好ましい。また、保持具がネジ類やファスナーなどを用いて、あんか本体の外面に直接装着されているものも含まれる。